



ベスト シーニックバイウエイズ プロジェクト2019 応募プロジェクト一覧



ベストプロ2018 最優秀賞

どうなん・追分シーニックバイウエイルート

どうなん道の駅連携事業

シーニックバイウェイ北海道推進協議会

活動名称

～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取り組み～
函館新道「花いっぱい活動」及び「シーニックdeナイト」

エントリー部門

美しい景観づくり

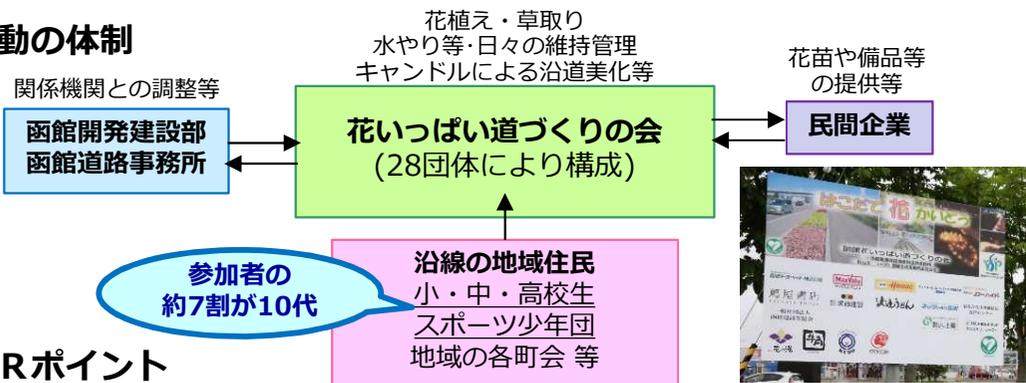
ルート名称

函館・大沼・噴火湾ルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的・目標：
 - ・道ゆくドライバーや函館を訪れた国内外の観光客の方々に「綺麗なお花」を見て、旅の疲れを癒し、喜んでもらいたいという**おもてなしの取り組み**。
 - ・加えて、道路管理者及び沿道の民間企業等とも連携し、綺麗な道の維持管理活動等を通じて、**ボランティアの相互協力関係の構築**を目的とする。
- 活動内容：
 - ①植樹木の土起こし（毎年、5月下旬）
 - ②植樹木への植栽（毎年6月の第2土曜日）
 - ③植樹木の草取り・水やり（毎月第2土曜日 ※月1～2回）
 - ④花の撤去活動（毎年10月の第4日曜日）
 - ⑤ワックスキャンドル製作体験会（毎年12月～1月下旬）
 - ⑥道路沿道へのキャンドル設置・点灯（毎年2月上旬）
- 活動期間：平成16～令和元年度 **※継続展開中**
 - ・実施場所：国道5号 函館新道インターチェンジ付近の植樹木

②活動の体制



＜夏期沿道活動「花いっぱい活動」植栽及び維持管理活動＞

植樹木の土起こし(5月下旬)⇒植栽(6月上旬)⇒草取り・水やり等（毎月第2土曜日）を10月下旬まで継続的に実施。花植えには、平均800名、毎月の維持管理には、100名程度が参加する。



＜冬期沿道活動「シーニックdeナイト」～ワックスキャンドルで灯りと心をつなぐ～＞

ワックスキャンドル製作体験会(12月～1月下旬)⇒キャンドル設置・点灯(2月上旬)を実施。ワックスキャンドル製作体験会は12箇所で開催（函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・八雲町）。キャンドル設置・点灯には、毎年、約400名程度が参加する。



③PRポイント

- 【総意工夫した点や苦労した点】
- ・函館の玄関口でもあり地域としても大切な場所である函館新道の価値を高めるべく、**10年を越えて継続的に国道沿道の維持管理活動を実施**。
 - ・**地域・民間企業・道路管理者等の連携体制が十分に**図られている。
 - ・**事務局が個別に小中高校を訪問、熱意を伝え、多くの参加**に繋がった。
 - ・**協力企業等を掲載した統一看板**を設置により協力体制の見える化が図られ、**出資企業が増加し、企業のイメージアップと資金収集**に繋がった。

【活動による効果】

- ・夏期(5～10月)だけではなく、冬期(2月)は函館新道沿線をキャンドルで彩る「シーニックdeナイト」にも発展し、**年間を通じた沿線の美化活動に貢献**。
- ・**活動参加者の継承**（中学生が親世代となり親子二代で参加）と**地域愛着の醸成**。
- ・**民間企業**（スーパー、大型量販店等）との**連携体制の強化**。

“一年を通じた函館新道での活動”を通じて、**地域への愛着醸成**や**参加者間の交流促進**に大きく寄与している。

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

羊蹄山のビューポイントとして、2018年9月29日(土)に「北海道150年記念 みらいの森育樹会」に合わせて活動を開始した「みらいの森(ニセコ町)」。シーニックバイウェイビューポイント看板も新設し、今後は、シーニックの森としての登録を目指して、さらなる森林の保全・活用を進めていく。

●活動内容：①シーニックビューポイントとしての**周辺環境の整備**(育樹活動・ウッドチップ敷設・デッキ設置等)

②同じく、シーニックビューポイントとしての各種活動時の**利活用**(集客イベント等での利用)

③小・中・高等学校等とした**育樹活動の実施**(修学旅行・研修旅行等)

④地元住民や地域活動団体を対象とした**育樹会等を通じた地域の人材育成**

●活動期間：平成30年度～令和2年度（※継続展開中）

・実施場所：みらいの森(ニセコ町)



2018年9月に設置したビューポイント案内看板

②活動の体制

育樹活動等の実施
みらいの森看板の設置
地域人材の育成等

安全確保
関係機関との調整等

後志総合振興局森林室
ニセコ町

NPO法人
WAOニセコ羊蹄再発見の会

エリア全体での草刈等

支笏洞爺ニセコルート
ニセコ羊蹄エリア
代表者会議

小・中・高等学校等
その他、教育機関
民間企業等

既に高校の研修旅行や
民間企業の研修活動等、
様々な活動・イベント等を展開中



「みらいの森 育樹会」(2018年9月29日)



「日本風景街道大学 ニセコ羊蹄キャンパス」
エクスカージョン(2019年9月21日)

③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・北海道の育苗事業の役割を終えた**道有林をビューポイントとして活用**
- ・道有林の**森林ボランティア活動**等に対する積極的な**フィールド提供**
- ・各種**シーニック地域活動での活用**により「みらいの森」PRに繋がっている
- ・教育機関や民間企業等、幅広く多くの方に**活動に参加してもらう気運醸成**

【活動による効果】

- ・地域住民と来訪者による育樹活動による森林面積の拡大【環境保全効果】
- ・地域住民と来訪者による交流機会の増加【外向きの効果】
- ・来訪者に対するビューポイント提供に対する高評価【 " " 】
- ・地域資源および地域人材の活性化【内向きの効果】



地域活動団体や教育機関との連携による「みらいの森 育樹活動」※継続的に展開中

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●目的・目標／体験型観光と個人旅行のニーズを含め、一次交通の衰退や二次交通の脆弱さを逆手にとり、地域にとってプラスとして、地域資源に触れ・遊び・移動そのものが観光となる新しい旅のスタイル『きた北海道エコ・モビリティ』を広域で連携・推進
⇒スロウな旅が地域への滞在時間の長期化・経済効果・周遊性向上に繋がる

●活動内容／**R3プロモーション動画の作成**

道（Road=自転車・歩く）と川（River=カヌー）と鉄道（Rail=JR宗谷本線）が並行する地域性を活かして**3つのR**を繋ぎ、美しい景観を見て＆自然に触れて遊び＆美味しいものを味わいながら日本のてっぺんを目指す旅を推奨するため、過年度までにはアクティビティと食や観光を繋げるコース設定、コンテンツの発掘・検討を進め、それらを組合せた「R3モニターツアー」を昨年度実施した。ツアー参加者からの満足度や今後への期待も多く、意見等も参考に、**R3プロモーション用のイメージ動画**を作成した。

★ターゲット：20～30代の女性★
⇒食と観光+遊べるプチアクティブな女子旅

●活動期間／2019年9月～2020年3月
＜2017年度から「きた北海道エコ・モビリティ」の取組みを継続実施＞

●活動範囲／きた北海道エリア（天塩川シーニックバイウェイ、宗谷シーニックバイウェイ、その他関係する近隣市町村）



▲撮影の様子

▼投稿されたInstagramでは、主に動画での公開。



▼作成した動画画面。旭川空港へ到着してからバスで移動、手荷物を預け、自転車やカヌーで移動しながら、御当地食を堪能しながら宗谷岬へ。映像は約5分。



②活動の体制

実施主体 **きた北海道エコ・モビリティ**
天塩川シーニックバイウェイ【事務局】
宗谷シーニックバイウェイ
シーニックバイウェイ支援センター

＜協力・連携＞ 常に密に情報共有
北海道エコ・モビリティ研究会／北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会／旭川開発建設部／稚内開発建設部／JR北海道旭川支社／その他（団体/自治体/企業等）

③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・紅葉シーズンの美しい自然風景の時期を狙った。天候にも恵まれ、よい撮影ができた。
- ・実際のJR便に合わせているため、撮影タイミングなどに苦労した。
- ・Instagramのフォロワー数が多いモデル（2名）を起用し、それぞれのInstagramで撮影の様子や地域の情報をアップしてもらい、PR効果を促した。

【活動による効果】

- ・Instagramに、movieや写真画像、地名や特産品等を#でタグ付による投稿が10回以上があった。インスタグラムなどを中心に述べ約1000件ものコメントやいいね数があり、広く周知に繋がった。

【今後の展開】

- ・動画を有効的に活用し、広く周知するための手法を検討したい。（例）道央圏・首都圏等へのPR、外国語版動画の作成）
- ・JR宗谷本線の存続等も踏まえて、今後も沿線自治体と協議しながら検討していきたい。
- ・北海道・道北の魅力でもある“雪”に触れるWinterシーズンのPRにも、力を入れていきたい。
- ・新型コロナウイルスの影響による旅行等の自粛などを踏まえ、PR手法等を検討したい。

活動名称

地域住民と道路管理者の地域協働による
板割拡幅記念植樹区間景観保全活動

エントリー部門

美しい景観づくり

ルート名称

札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

平成15年に板割沢拡幅事業の記念植樹が行われた。しかし、時間の経過とともに、樹木が成長し景観を阻害する状態になっていた。平成28年に小金湯さくらの森がオープンしたことを契機に、記念植樹区間の道路空間改善について検討を開始。その結果、平成28年度から、地域住民と道路管理者が協働で草刈りや樹木伐採、ゴミ拾いを実施する道路景観保全活動が始まった。この活動は、平成28年度から始まり、令和元年度まで毎年秋に継続して実施されている。

●活動内容：

- ・板割拡幅記念植樹区間での景観保全活動（草刈り、樹木伐採等）
- ・みすまい児童会館の子ども達もゴミ拾いや手作りの樹木板を設置するなど景観保全活動と一緒に参加している

●活動期間：平成28（2016）年度～令和元（2019）年度

- ・実施場所：板割拡幅記念植樹環境整備区間（L=0.3km）

②活動の体制



③PRポイント

【総意工夫した点】

- ・地域住民と道路管理者が連携し合い、維持管理活動を実施した点

【活動による効果】

- ・活動を継続していくうちに、沿道景観の美観が向上し、それに伴い、地域住民の地域への誇りと愛着が高まった
- ・地域住民の景観保全のノウハウの蓄積と景観保全への意識向上
- ・景観の向上により、ドライバーがゆっくり走行し安全性が向上
- ・子ども達への環境教育の場の提供
- ・熊出没頻度の減少



樹木伐採している様子



作業車で伐採木を回収



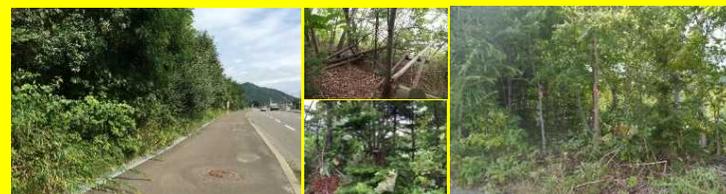
作業終了後の集合写真

活動実施場所



児童館の子供達が制作した樹木板

【2016年：実施前】



エゾエノキ周辺に樹木が茂り背後の風景が見えない



4年間継続して
景観保全活動を実施

【2019年：実施後】



3年をかけ、植樹当時の添木を全撤去し、美しい道路景観を創出